

【西区】平成29年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	29年9月4日 15時55分 ～ 17時30分
場 所	西区役所4階4A会議室
出席者	<p>【座長】清水富雄議員</p> <p>【議員：2名】清水富雄議員、上野盛郎議員</p> <p>【西区：16名】吉泉英紀区長、早川恵庸副区長、中嶋俊明消防署長、佐藤眞理代福祉保健センター長、平本雅典福祉保健センター担当部長、菊地健次土木事務所長、ほか関係職員</p> <p>【局説明員：2名】都市整備局都心再生部白井正和みなとみらい21推進課長、医療局病院経営本部再整備部肥田雄三再整備課担当課長、ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年度個性ある区づくり推進費決算状況について 2 平成29年度 西区主要事業等の進捗状況について 3 平成30年度西区予算編成について 4 その他
発言の 要 旨	<p>【平成28年度個性ある区づくり推進費決算状況について】</p> <p>【平成29年度 西区主要事業等の進捗状況について】</p> <p>上野議員：地域住民の主体性を応援できるよう、もう少し予算の融通がきかせられないかと思う部分がある。市民活動支援事業の実績を教えてほしい。</p> <p>五月女地域振興課長：西区の市民活動支援センターにしとも広場に委託した事業で、地域の現状や地域の担い手についての検討を行った。具体的には、第4地区の皆様にヒアリングし、現状把握とあり方を探った。</p> <p>清水議員：6ページ「女性と子どものための相談支援強化事業」で、西区内のDV、不登校、子どもの虐待の実態について、数値的な資料があれば、教えてほしい。</p> <p>大迫こども家庭支援課長：女性相談の件数は、28年度は、861件。29年度7月末までの延べ件数は353件。児童虐待は、西区内で虐待の恐れがある、あるいは養育に支援が必要である児童の数が、28年度末時点で120名。こども家庭支援相談事業での、不登校に関する相談等は、昨年度西区で67件だが、西区内の不登校の数は把握していない。</p> <p>上野議員：区でも、区内の状況というのは、把握した方が良い。不登校など、課題のある小中学生は市内5,000名とも言われている。すぐ可能か</p>

どうかはともかく、確認する方向、実態を調査する方向で考えてほしい。

清水議員：女性相談の件数が861、虐待関係では120名という数字を、皆さんがどう受け止めるか。市全体での不登校数は把握していても、では西区内がどうなのか。区として、18区それぞれが把握して、対策をしていく。そういう思いで、皆さんで共有できたらと思う。また、具体的な例をあげて対策を議論したい。

平本福祉保健センター担当部長：大事なお指摘だと思う。西区の不登校の数字は、今のところ我々の手元に来ていないが、教育委員会事務局から手に入るか、調べてみたい。

清水議員：7ページ「高齢者あんしん生活サポート事業」の「もしもカード」。これを、どれだけ配り、何人の方が持っているのかなど、結果的なことがあれば教えてほしい。

山田高齢・障害支援課長：「もしもカード」は、ケアプラザや民生委員を通して、高齢者にお配りする。このカードを持っていて助かったという結果は、今の時点でいうと出ていない。ただ、お配りした関係者の方には、非常に役立つものなので、どんどん増刷して配ってほしいと言われているので、今後役立つものと認識している。

清水議員：とてもよくできていると思うし、これが現実的に見やすいのだと思うが、減災、災害対策という観点も含め、これを必要として持ち歩く人が西区内で何人いるのかといった具体的な話ができたらと思う。

上野議員：清水先生と重複する部分が多いが、同じところを疑問に感じた。いじめ、不登校、DVは、大変重要な問題だと思う。また、西区は、人口は少なくても、住民層も、地形的にも幅広く、大変難しい地域だと捉えている。ぜひ、市全体ではなく、西区がどうなのかという実態把握をしてほしい。また実態把握という意味では、高齢者の孤立も同様。5ページ「西区ふれあい福祉推進事業」のところもそうだし、「もしもカード」も全く同意見。民生委員等を通じて配っているのなら、使われ方、数、どういったところが便利なのか等、もう少しヒアリングをしていただけたらと思う。

横浜駅西口の喫煙所がらみの話では、区長にも頑張ってもらっていて、再整備が進んでいるところだと思うが、油断せずエリアマネジメントはしっかりと進めていっていただけて、横浜市の顔としての整備と保全というものをしていただきたい。

清水議員：8ページのガス式発電機について、もう少し詳しく教えてほしい。

山田高齢・障害支援課長：通常よく地域防災拠点等に置いてある、ガソリン式の発電機だと、医療機器の充電ができないため、医療機器のバッテリーの充電が可能なガス式発電機を取り入れた。

清水議員：他区で先行事例はあるか。

山田高齢・障害支援課長：この内容での整備は、18区では西区が初めて。

清水議員：ガソリン式発電機との違いをもう少し詳しく教えてほしい。

平本福祉保健センター担当部長：電流には波形があって、その波形が合わないガソリン式では充電できないと聞いている。18区のなかでは、西区が最初にこの問題に取り組んだ。8ページにあるとおり、電源を要する等、医療依存度が高い医療ケアを要する在宅障害児・者の方々がいて、もちろん家庭にはバッテリーが備え付けてあるが、それが途切れたら、その先自分達はどうなるのかと、非常に大きな不安が寄せられた。区内の各地域包括や在宅医療関係者と相談し、3箇所を設置となった。

清水議員：画期的だと思う。医療的に、充電が必要な方にはよくケアをして、いざという時にどこに行けばいいかを、皆が知っている必要がある。使わない方も、知っておく方が良く、PRが大事。

上野議員：16ページ「区本部の防災機能強化」について、例年からの変更点があれば教えてほしい。

永峯総務課長：新規事業としては、避難勧告などの発令や地域防災拠点の運営支援が円滑に行われるよう、「区本部情報関連機器等の集約・整備」を検討している。また、「西区緊急時情報伝達システムの導入」は、総務局からの配付事業だが、災害時の情報を一斉に皆様にお知らせできる、電話によるシステムを導入している。

上野議員：2つの事業とも、情報の収集や把握、連絡系統関連かと思う。例えば「西区緊急時情報伝達システムの導入」には「自治会町内会長を対象」とあるが、みなとみらいのような、自治会町内会会長不在の地域に関してはどういう連絡をするのか。

永峯総務課長：自治会町内会長にご協力いただいて、試行している状況であり、その結果に基づき、検討していきたい。

上野議員：発災時の情報伝達が、100%うまくいく保証というのではないと思うが、より100%に近いところを構築すべく、毎年ブラッシュアップして、精度をより高いものにしていただきたい。

18、19ページだが、みなとみらいを中心に、衛生面の実態調査は今後もしていただきたい。18区のなかでも共同溝化が進んでいるという特徴のある、西区なりの視点で研究してほしい。続いて19ページだが、第50回アジア開発銀行年次総会でのふき取り調査について、もう少し詳しく教えてほしい。

吉田生活衛生課長：第50回アジア開発銀行年次総会開催前に、ふた月ほど前から事業者に働きかけをした。汚れがあればそれだけ発光する、ルミテスターと言う蛍光灯の原理を利用したふき取り検査を行い、今の手順でしっかりと包丁、まな板などが洗浄できているのか、確認した。趣旨は、今の手洗いで十分かという確認と、既存の手順書のPDCAを確認するツールとして実施した。その結果が良くない所には手順書を見直していただき、本番につなげた。

上野議員：一番よくないのは食中毒等が起こってしまうことだが、イベントを

行わせないのもよくない。事前の指導はきちんとやってもらって、問題のない状態にしたうえでイベントを開催し、皆様に楽しんでもらうということが大事だと思う。今後より国際化が進み、国際的なコンベンションが開催されることも多くなるが、国際的なコンベンションだからと検査の手を抜くことなく、努めてほしい。

【平成30年度西区予算編成について】

【その他】

上野議員：野村総研は本社移転したのか。

都市整備局白井みなとみらい21推進課長：本社移転ではない。

清水議員：みなとみらい21の計画は、当初から就業人口19万人、居住人口1万人で変わらないか。また、それぞれ、現在はどうか。

都市整備局白井みなとみらい21推進課長：計画に変更はない。就業人口は28年末時点で約10万3千人、居住人口は4月末時点で約8,300人。

清水議員：市民病院関係で、地元説明をした際に、電柱の地中化という要望があったと聞いている。理想と現実はあると思うが、その辺は丁寧に説明をしていく必要があると思うが、どうか。

医療局肥田再整備担当課長：工事説明会の時にそういうご意見を頂いた。そのあと広聴でも頂いている。現実的にはコストの問題が大きい。億単位のお金がかかるので、病院の経営とのバランスという問題があるが、引き続き検討は進めたい。

清水議員：現実についての説明は、なかなかしにくいことだが、丁寧に説明することが、お互いの意思疎通につながると思うので、ぜひよろしくお願いしたい。引き続き検討と働きかけを重ねてほしい。

市民病院は、背中合わせで球技場があるが、騒音等の心配はないか。

医療局肥田再整備担当課長：声援や照明の問題に配慮し、まず、病室部分は、球技場から見て反対側に設け、その裏側をスタッフ等の部屋にした。球技場側の窓はなるべく開けないようにしつつ、窓も防音性能の高い窓を採用している。設計段階で、球技場で実際の試合の音の測定を行い、対応を検討した。十分な対応ができていると考えている。

備 考